

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

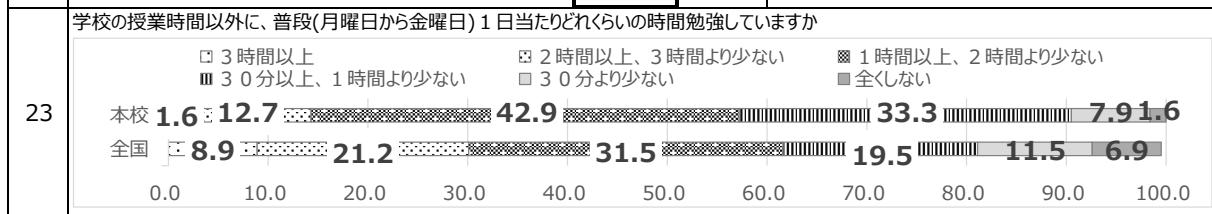
質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	88.8	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.9	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	93.6	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができています。
- ◎ 友達や周りの人の考えを大切にしている姿が伺えます。その結果、話し合い活動等も充実し、多様な意見交流が行われ、自分の考えを深めています。
- 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を工夫し、学びを深めていってほしいです。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	79.4	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.9	79.0



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	73.0	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	60.4	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	80.9	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	80.9	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎ 人の役に立つ人間になりたいや地域や社会に貢献したいと思う生徒が多いです。
- 自己肯定感や幸福感等が全国平均より低くなっています。特に、自分には、よいところがあると思うや将来の夢や目標を持っているが低いです。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	85.7	72.3

調査結果を受けて

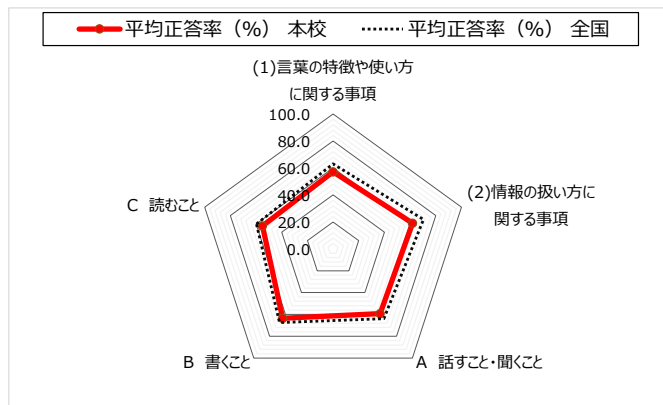
- 子どもの興味・関心等の実態にあった課題を設定し、授業改善を行っていきます。
- 学校では、3年間を通してキャリア教育の充実を図ります。職業人の講話や高校調べ、先輩の体験談、職場体験活動などを通して、働くことや将来の進路について考えられるようにします。また、高校の体験入学などの機会を活用し、自分の将来の夢や目標について主体的に考える力を育てていきます。さらに、道徳や学級活動、学校行事を通して、自分のよさや可能性に気付けるよう支援していきます。

【ご家庭では】

- 子どもが興味・関心のあることを引き出すために、話に耳を傾け、「どうしたの?」「あなたは どうしたい?」などの問い返しを大切にしてください。
- 将来の夢や目標について考える機会を家庭での会話の中で増やしてもらうことだと思います。ご家庭での夢や目標を話題にすることで、将来に対する意識が高まります。また、お子さんのよいところを伝えやることで、自信が つきます。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	57.1	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	61.9	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.3	63.9
	B 書くこと	63.5	67.4
	C 読むこと	55.0	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	66.8	72.7
短答式	54.0	55.8
記述式	39.2	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 国語辞典を参考に、同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出すなど思考・表現を問うものに対して、本校の平均正答率が全国の平均正答率を上回っています。
- 短答式で解答する問いよりも、選択式の問いの方が正答率の開きが大きいことから、正答を吟味する力が課題です。また、記述式で問うものも正答率が低いです。
- ◎ 無回答率が全国平均と比べてほとんどの設問において下回っており、どんな問題でもチャレンジする生徒が多いです。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 三	単語の活用について理解しているかどうかをみる	77.8	85.4
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	93.7	92.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三	話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	61.9	70.4
3 四	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	34.9	45.0

調査結果を受けて

【学校では】

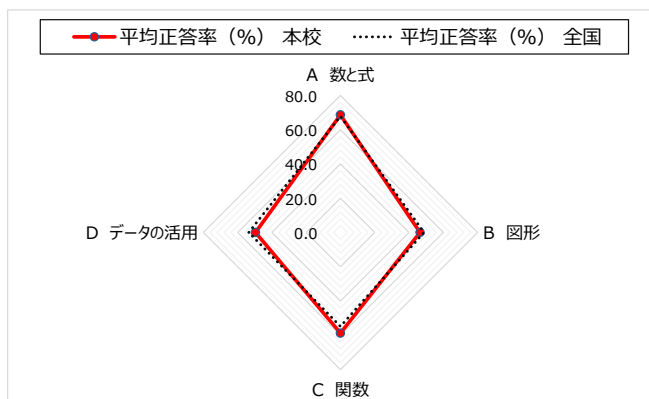
- 言葉の知識や興味を広げるために、定期テストや日々の授業で、教科書や日常生活で出てくる言葉を話題にしたりテストに出題したりしていきます。
- 授業中に漢字の小テストを実施し、漢字の知識や語彙を豊かにしていきます。
- ICTを活用した授業を行い、生徒が主体的に学習する環境を整えていきます。

【ご家庭では】

- **本や新聞（活字）にふれる**：頭の中で情景を「想像する力」や、自分の気持ちを伝える「豊かな言葉」が自然と育ちます。
- **家庭での会話を増やす**：家族との何気ないおしゃべりや「どう思う？」の問いかけが、安心感と自分で考える力が育ちます。
- **言葉を大切にすること**：丁寧な言葉づかいを心がけたり、子どもたちの素敵な表現を「今の言い方がいいね」と認め合ったりすることで、言葉の持つ温もりを伝えてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	68.6	67.8
B 図形	46.4	48.7
C 関数	58.7	54.8
D データの活用	49.6	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	49.7	59.3
短答式	64.9	64.2
記述式	42.5	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 「数と式」「関数」では、全国平均正答率を上回っています。特に、「関数」では、表の特徴を捉えて x 、 y の対応する値を求めたり、問題解決の方法を数学的に説明したりする問で正答率が高くなっていました。また、無回答率については、ほとんどの問題で全国平均よりも低くなっています。
- 「データの活用」の箱ひげ図から読み取る問題では、正答率が全国平均より15.5ポイント低い結果でした。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	85.7	70.5
7(2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	42.9	33.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
9(2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	60.3	75.8
5	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	60.2	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業では、自力で考える時間を確保するとともに、ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れていきます。また、答えだけでなく、その理由や考え方を説明する活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図っていきます。
- 基礎・基本の定着を図るとともに、数学用語の意味を正しく理解させ、数学的な見方・考え方を身に付けられるよう指導していきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習では授業で学んだ内容の復習や問題演習に継続的に取り組むことが大切です。粘り強く取り組んでいけるように、ご家庭でも称賛や励ましの言葉かけをお願いします。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	477
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.2 / 2	2.2 / 5	0.5 / 2
全国	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
9	読むこと	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する
5	聞くこと	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
7	読むこと	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する
11	書くこと	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く

結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎ 長い英文のスピーチを聞いて、必要な情報を取り出し、話し手が最も伝えたいことを考えることができています。
- ◎ 物語を理解して登場人物の行動や心境の変化を理解できています。
- ◎ 無回答が少ないです。
- 回答につながる設問の条件の読み取りを苦手としています。
- 不規則動詞の過去形を正しく書けていないことから、現在と過去の区別をつけられていないようです。

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業の中で、聞き取りや英会話の練習を引き続き続けます。（スモールトーク、本文理解）
- 基本的な単語や文法の活用を、常学習で授業の中に組み込んでいきます。
- テストの前後で、設問に対して正しく事得る力を身に着けるために反復練習を行います。

【ご家庭では】

- 聞く力、話す力を強化するために、AI英会話を活用し、継続して取り組むことを習慣づけるよう、言葉かけをお願いします。
- Aノートでの予習やワークで復習をすることで、読む力、書く力を強化することができます。